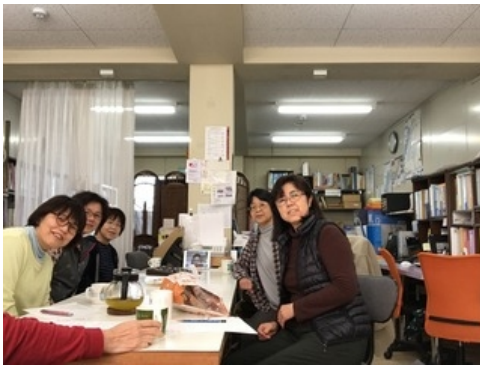


2021年（令和3年）1月の末、浜松市中区に拠点を置いて活動をされている認定NPO法人「浜松NPOネットワークセンター」（通称、エヌポケット）をお訪ねして、代表の井ノ上美津恵さん（67）にいろいろとお話を伺ってきました。

まず、NPO全体としての日本の現在の状況をお聞きしたのですが、平成10年に特定非営利活動促進法が施行されて以来、日本でも「社会を変えたい」という想いを持った方々が集まり、環境保護の活動や障害者支援等の法人がたくさん生まれました。しかし、大体のところは規模が小さく財政基盤も脆弱で、人手も足りていないところが多いのが現状とのこと。そのため活動を継続していくことが困難で、解散をしてしまう法人も増えているのだそうです。

25年ほど前、お互いの活動を支え合うネットワークの必要性を感じた井ノ上さん達は、志がある人や団体が活動の幅を広げられるようにと、各種団体の連絡会を立ち上げました。それが、現在のエヌポケットにつながる最初の一步だったそうで、中間支援を行うことで団体と団体、団体と行政、団体と市民等を結びつける取組が始まったのです。



[浜松市中区にあるエヌポケット事務所](#)



[一番右の方が井ノ上さんです。](#)

エヌポケットの活動の理念は、「多様な人々の社会参加をすすめ、つなげること」だと井ノ上さんはいいます。主な活動の内容を抜粋させていただくと、

「多様な地域社会資源をしらべ、しらせます」

- はままつ市民の力きらきらBOX
- ニーズのある子ども・育ち応援マップ

「NPOを元気にするセミナーをひらきます」

- NPOのマネジメントセミナー
- NPO法人会計セミナー・相談
- 講師派遣

「社会にこうなったらいいなって声をだします」

- 議員との円卓会議
- パブリックコメント

「人々や団体をつなげます」

- 共同事務所、機能の提供
- N-Pocketサロン

「障害のある人の社会参加支援」

- ジョブコーチによる就労支援、雇用支援
- ジョブコーチ養成

「ICTによる社会参加支援」

- 訪問型パソコン・iPad講座
- 在宅就業支援「ぼけっと工房」

「子ども・多文化共生」

- 子ども支援ネットワーク構築
- 訪問型学習支援
- フードバンク

「地域市民の社会参加支援
○市民と行政のまちづくり会議
○地域力向上事業

とのこと。例えば一番最初の「はままつ市民の力 きらきらBOX」を拝見してみると、これは浜松市内に活動拠点を置く250以上のNPO法人や社会貢献団体の情報を集約したサイトで、各々の団体の活動分野に分けてわかりやすく分類されています。考えてみれば、このようなサイトは今までありそうでなかったもので、自分が必要とする活動をしている団体を簡単に検索することができるのは画期的といえるでしょう。

また、掲載されている団体の方々がお互いの存在を確認し合い、連携を深めていく効果も期待できるところが素晴らしいと思います。

他にもご紹介させていただきたいことがたくさんあるのですが、とても短い紙面でお伝えさせていただくことができないので、記事の終わりにエヌポケットのホームページへのリンクを貼っておきますので、詳しくはそちらを参照していただきたいと思います。



[2019年度の円卓会議](#)



[フードバンクに集まった食料です。](#)



[ほっとけない貧困の子ども2019シンポジウム](#)



[シンポジウムの分科会の様子。](#)

代表の井ノ上さんのことについても、少しだけお話を伺わせてもらいました。幼い頃から社会問題には興味があった井ノ上さんは、大学で英語学を専攻しながらイギリスの進んだ市民活動を学びました。社会に出てからは教育の世界に携わっていましたが、湾岸戦争の時に募金活動に加わったのをきっかけに本格的に市民活動を行うようになったそうです。

そんな折に、山口祐子さん(エヌポケット前代表)に誘われて、1997年(平成9年)に浜松NPOネットワークを設立。前述のような活動に励み社会の変革に取り組んできましたが、それは同時に自分の心の成長のための学びでもありました。また、子育ての時期など、自分自身が悩みをかかえ大変な時もありましたが、「そのような時には周りの人が自分を支え助けてくれた。」と井ノ上さんは言います。お話を伺って諺の“情けは人のためならず”という言葉を思い出しました。

今後の活動としては、もっとお互いを気にしあい助け合えるような社会にしていけるため、今の活動を広げていくのが目標なのだそうです。面倒くさいことは嫌だということで、私たちは何でもお金でサービスを買う世の中を創ってきましたが、お金があればいいけれど…無くなった時には誰も支えてくれないような社会を自分たちで創ってしまっているとも言えるわけです。そのような状況を、少しでも変えるための活動に励んでいくことが井ノ上さんの生きがいなのです。

最後に、この記事を読んでくださっているシニア世代の方々へのメッセージをお願いしました。

「若い人たちは、いろいろとしがらみがあって社会に発言をしにくい部分もあると思うので、シニア世代の方々ももっと張り切っていいんじゃないかと思います。長く生きている分、それだけ貯めてきた知恵もあるのだから、それを社会に伝えていければ自分ももっと生きがいを持てるし、社会ももっと良くなっていくのだと

思います。」

とのこと。お話を伺っていて、「自分ももっと頑張らないと。」と勇気をもらったような気がしました。エヌポケットの皆さんと井ノ上さんのますますのご活躍をお祈りしつつ、自分もなにかできることで「人と人がつながる。」ための活動に協力させていただこうと思います。合掌

取材：浜松南部・湖西地区担当 生きがい特派員 丸山敬

[浜松NPOネットワークセンター\(エヌポケット\)](#)